

●目次

●今月のことば	小池 秀章
●表紙のことは	大橋 功・1
「おいものきょうだい」	金児 暁嗣・2
●巻頭言	杉山ひとみ・4
自己への慈しみ	寺田詩緒里・6
●わたしの保育物語	馬場 道真・8
ご縁・感謝	野呂 昶・10
●いま、学ぶ、越える	佐藤 隆生・14
先生とよばれて	岡田 真・16
●園児向け法話	富田富士也・18
つながりを慶ぶ	岡田 真・16
●仏典童話	野呂 昶・10
毒のくだもの	佐藤 隆生・14
●ともに生きる生かされる 園長わたしの発言	野呂 昶・10
常照我々常に私を照らしてください	野呂 昶・10
●食育アラカルト・北から南から	野呂 昶・10
江東学園幼稚園「前編」	野呂 昶・10
●保育者の心に寄り添うカウンセリング	野呂 昶・10
積極的コミュニケーションで	野呂 昶・10
行き詰まった中堅保育士	野呂 昶・10
●なぜ？なぜ？先生	野呂 昶・10
どうして仏さまのお話を聞くの？	野呂 昶・10
●仏教讃歌	野呂 昶・10
落葉の踊り	野呂 昶・10
●「まごとの保育」のすすめ 16	野呂 昶・10
阿弥陀さまのお育てに遇う	野呂 昶・10
●教区だより	野呂 昶・10
北豊教区保育連盟活動報告	野呂 昶・10
●保育のヒタミン	野呂 昶・10
働いているだけでは、プロにはなれない	野呂 昶・10

「おいものきょうだい」

村内 勇太 (むらうち ゆうた) 3歳

千鶴幼稚園

●表紙のことは●



おおはし いさお
大橋 功

岡山大学大学院
教育学研究科

大きなおいも、小さなおいもが、所狭しと言わんばかりに描かれています。描くところが狭くなってくるとさらに小さなおいもを描き加えていったのでしょうか、どのおいもにも顔が描かれ、その表情も様々です。実は、最初はおいもだけをたくさん描いていたそうで、蔓を絵の具で描き出したとき、おいもが手を繋いでいるように見えたのでしよう、「なんだか兄弟に見えるよ」「こっちはお母さんと子供」と言いながら顔を描き加えていったそうです。

ともすれば、大人は「大きく描いてね」と要求しますが、それは大人の勝手なイメージです。また、幼児は、実際の経験や目の前の事物を再現的に表現して終わりということはありません。ゆうたくんは、大小様々なおいもがたくさん獲れたという経験を元に描き出し、さらに想像を豊かに広げて表現を楽しんでいます。ここには「いつも仲良しでいたい」という家族への願いが表現されているのです。これが、幼児の想像力であり創造性なのです。